

第3回北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画策定委員会 意見一覧

No.	意見者	意見
1	田中委員	・第1部のp22に重点課題が取り上げられているが、ここにしか出て来ていない印象。重点課題と各施策の関連が分かる作りの方が良いと思う。
2	中村委員	・骨粗しょう症健診等の健診事業が大事。受診が大切だと認識してもらうことが大事であり、周知していく必要がある。また、認知症は、早期発見が早期治療につながる。周りが気付かないといけない。
3	川島委員	・骨粗しょう症健診や認知症健診を特定検診の項目に入れてはどうか。経費的な問題があるのであれば、個人負担をいくらかして貰いながら普及していく、ということも考えられないか。
4	中村委員	・予算措置は議会を通さないといけない。とりあえずスタートすることが大切。
5	吉岡委員	・第2部のp5を見ると、介護が必要となった原因で、男性では糖尿病が第2位となっている。栄養が重要。
6	近藤委員	・フレイル予防について、公民館など自宅から歩いて行けるところで開催していただけると良い。
7	小林委員	・認知症になってから気付くのではなく、行政や地域でチェックするなどのアプローチがあると良い。
8	中村委員	・長谷川式（認知症長谷川式スケール）は、受け答え式の検査。30点満点で20点を下回ると認知症の疑いが出てくる。インターネット等で手に入る。認知症になってからではなく、検査、治療に繋げていく。イベントで配付してチェックするなどの方法も考えられる。1対1で質問して答えるという手間がクリア出来れば、有益と思う。
9	中村委員	・介護の担い手である若い世代の人口が減っているが、人生100年時代であり、高齢者でも元気な人がたくさんいる。
10	新井委員	・高齢の方が介護に携わる、と聞くと体力を心配するが、資格を持っている人が、出来る範囲で関わる事が出来るのが理想。70代、80代でも元気な方はいる。
11	中村委員	・他から集めてくるというよりも、元気で過ごされている方の力を借りるというのも手。年代が近いの方が高齢者の気持ちが分かるかも知れない。

1 2	田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・身体介護は自信がないが、病院への送迎や買い物の代行なら出来る、という人もいる。まずは、登録だけすれば参加出来るなど、とっかかりやすようにして、介護に参加しやすい雰囲気を作る。そのなかで、もっとやってみたいとなったら、認定ヘルパー養成講座を受ければ、こういうことも出来ますよ、という方が人を集めやすいのではないかと思う。
1 3	鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・認定ヘルパー養成講座はコロナ禍で中止していたが、再開もあり得る。
1 4	川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・認定ヘルパー養成講座のハードルを下げて、これならできる、の取次ぎを市でやって貰えると良い。広報誌への掲載や自治会の回覧板で回すなど、窓口になって貰うと良い。
1 5	清宮委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした介護を担ってくれる人材は、社会資源として必要と思う。一方で、介護事業者側の立場に立つと、ちょこっとだけやって貰える人を、介護人材というところまでとなると、長い道のりであり、直接的な人材の確保にはつながっていかない。本人が働きたいほどの仕事をとるまでにタイムラグがあったり、給料の面で折り合いが付かなかったり、なかなかマッチングが上手くいかないのも難しいところ。 ・認定ヘルパーの先の話として、例えば、初任者研修を受けられたり、研修費用の補助が受けられたりと言ったキャリアアップの支援を市でも行って貰えると良いのではないか。 ・比較的拘束時間が短いヘルパーについては、お子さんが幼稚園や学校に行っている間の隙間時間で、働きたいという方には向いている仕事と思う。事業所によっては、1件あたりいくら、また、1件だけ行って欲しいなどもある。このような方たちへの周知に取り組んでいただけると、マッチングにつながると思う。
1 6	中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを削ってより必要なことに予算を付けるしかない。市議会議員への周知も必要。
1 7	遠井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いい形で市の協力が必要。横のつながりが大事。連携を取って欲しい。